

企画展記念講演会

「1910年代フランス モネやピカソが生きた激動の時代」

講師：木島俊介氏(ポーラ美術館館長、展覧会監修者)

日時：9月30日(日)午後2時～3時30分

会場：地階講堂

当館特派員が、講演会(9/30)に参加し、感想を書いてくれました。(Facebook)

Akito Kinoshita

昨日は茨城近代美術館で開かれた、木島 俊介氏による講演会を聞いてきました。

主な内容は、19世紀～20世紀における美術の変容などについてでしたが、マネ、モネ、セザンヌ、ルノワールなど、とても濃いこの時代を分かりやすく解説していただいて本当に良かったです。

その中でも特に興味深かったのが色彩分割についての話で、目に見える色を作ろうと絵の具を混ぜ合わせると、黒に近づき濁ってしまうことから、原色による色彩分割を行っていたことを始めて知ったのですが、最近の絵画はあえて絵を濁らせて精神性を表していることが多くて、本当に美しいものを私情を持ち込まず描いているものは少ないなと感じました。それはそれで大好きなのですが、今でも19～20世紀の画家の人気が高まっているのは、そういう真の美術的価値からなんだなと改めて認識しました。

ポーラ美術館のコレクションが茨城で見ることのできる滅多にない機会なので、是非行って見て楽しんで下さい。

10月1日 14:06 ・公開